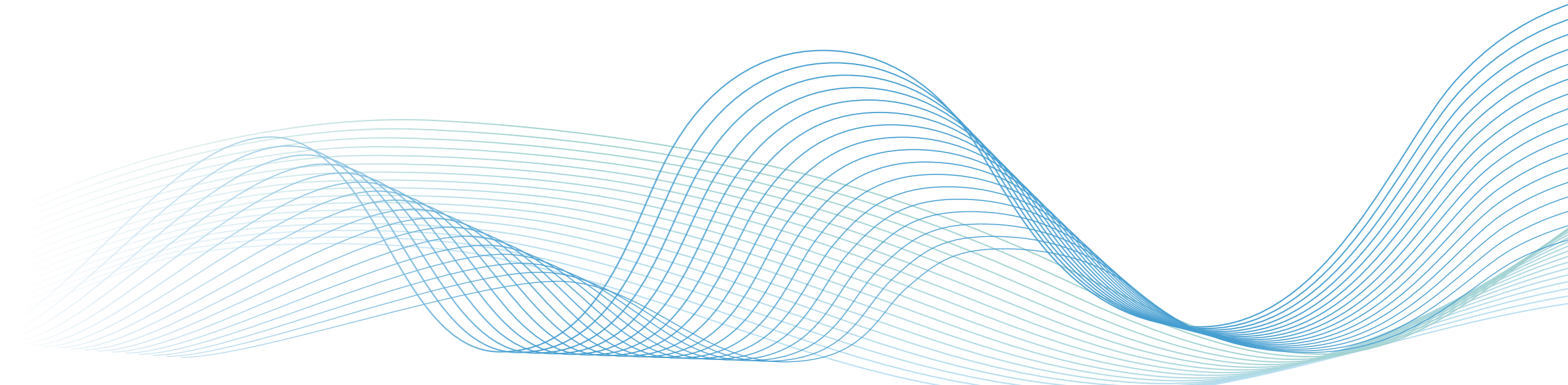




## Beyond Water with You

株式会社 堀場アドバンステクノ  
〒601-8551 京都市南区吉祥院宮の東町2番地  
TEL.075-321-7184 FAX.075-321-7291  
<http://www.horiba-adt.jp/>

**HORIBA** Advanced Techno  
会社案内 / Corporate Profile



HORIBAグループのコア技術 P.03

堀場アドバンスドテクノの事業領域 P.05

堀場アドバンスドテクノの各事業紹介 P.07

開発・生産・サービス体制 P.11

HORIBAグループのDNA/社史・沿革 P.13

生命をつかさどる“水”。  
それは人の暮らし、それを支える産業や  
自然環境においてなくてはならない存在です。  
しかし、さまざまな姿で存在する“水”を把握し、  
最適な状態に制御することはとても難しいことです。

“水”を活かすことは未来を創ること。  
私たちは「未来のために、水と対話しよう。」をバリューに掲げています。

皆様が直面する“水”の課題に対して、分析技術でその答えを見出すために  
私たちは“水”のエキスパート集団であり続けます。

堀場アドバンスドテクノは水・液体に特化した分析・計測機器の専門メーカーです。水は地球環境や生活環境、産業などあらゆる場面で重要な役割を果たしています。私たちは、そんな水に関わる様々な課題に対して、分析・計測技術でソリューションを提供してきました。

そして今、ニーズは多様化し、私たちの技術を必要としている人がいます。“世界中の水質を守り、水・液体計測を通じてすべての人々に豊かさを届ける”それが私たちの使命です。

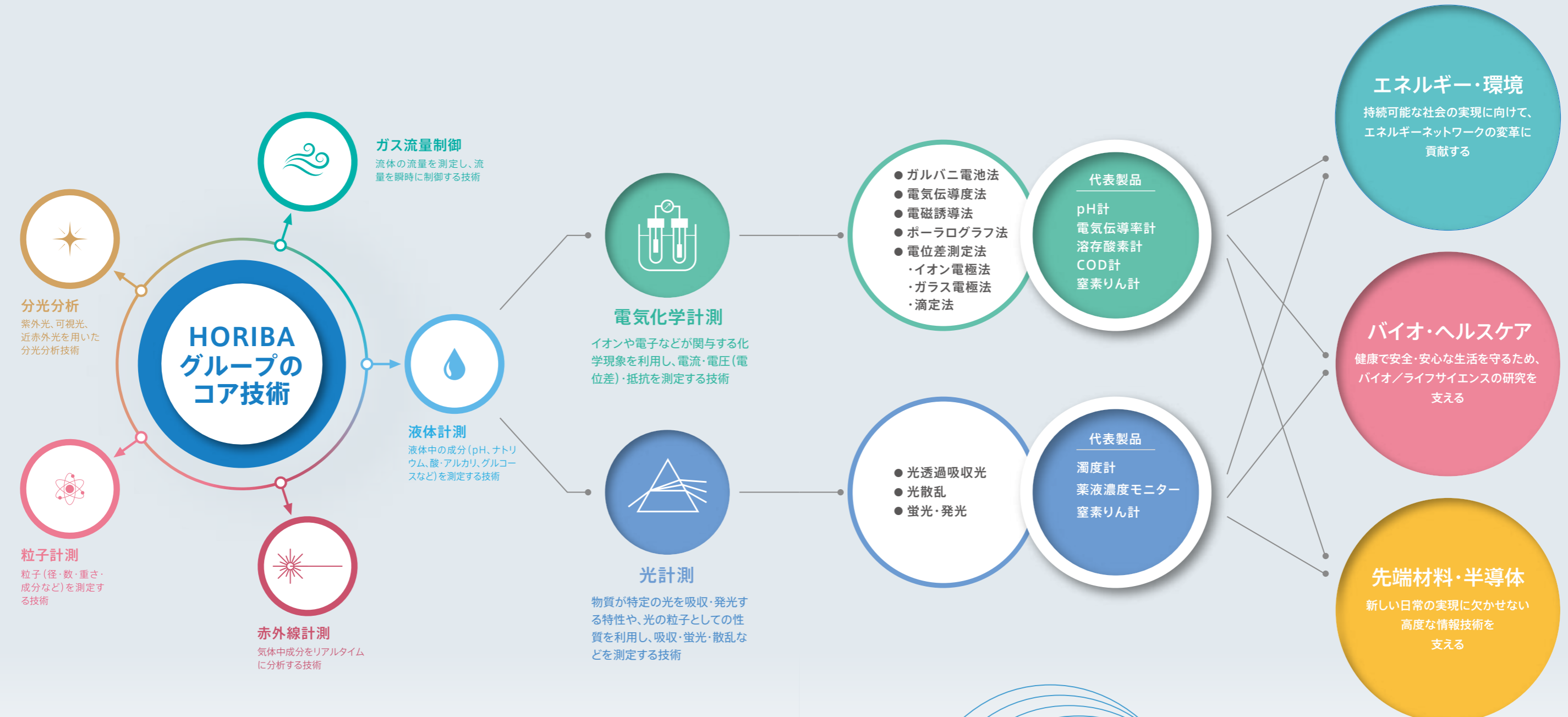
株式会社 堀場アドバンスドテクノ  
代表取締役社長

西方健太郎

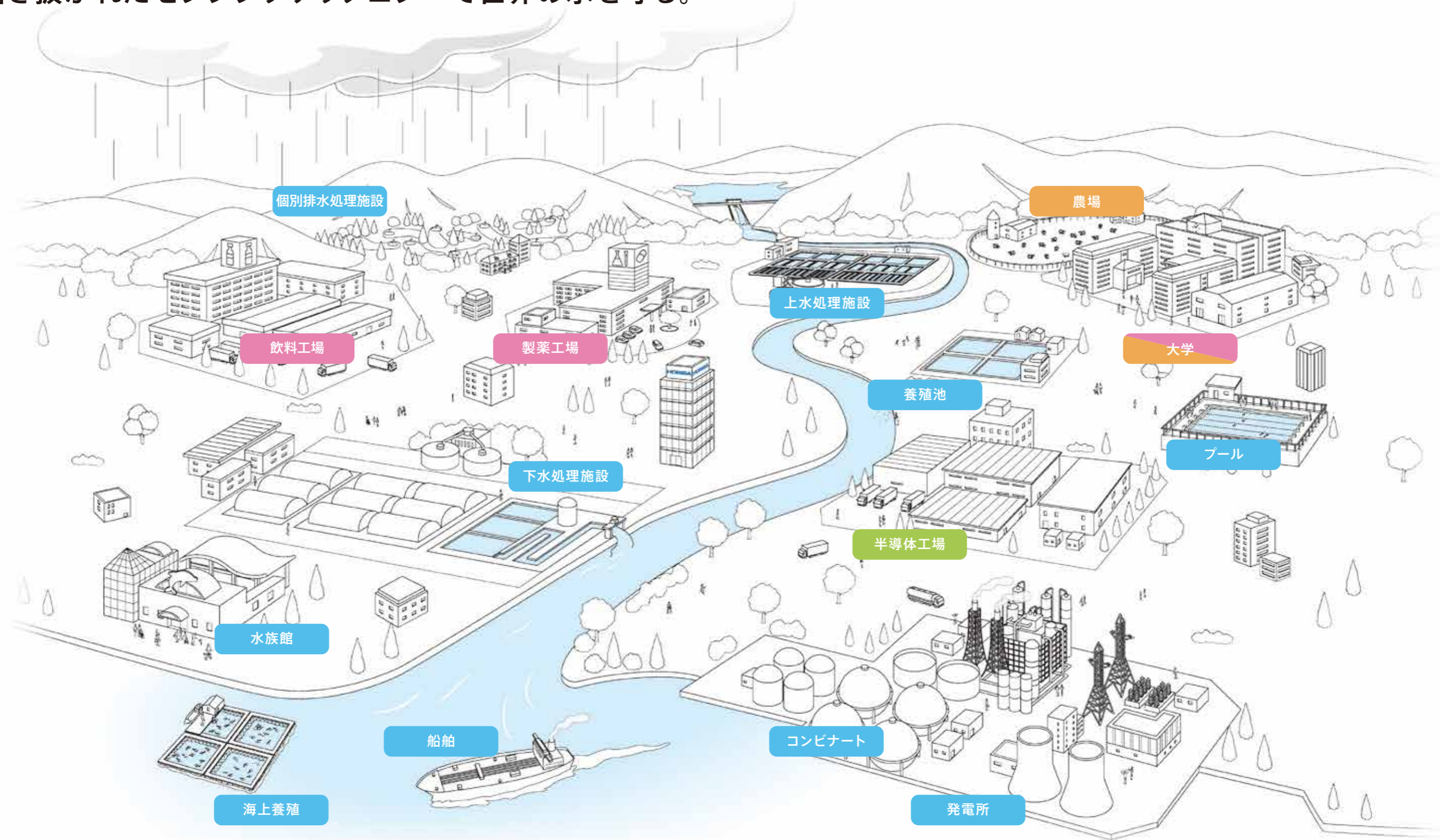
# HORIBAグループの水・液体計測技術を担う。

HORIBAグループは創業から70年以上、多様な「はかる」技術を積み上げ、多岐にわたり事業を展開してきました。中でも堀場アドバンスドテクノは、HORIBAグループが擁す水・液体計測技術を担い、発展させてきました。グループが持つコア技術、そして堀場アドバンスドテクノが持つ水・液体計測のコア技術は、異なる分野にまたがりシナジーを生み出します。これからも私たちは、水・液体計測にかかわるあらゆる課題解決に挑んでいきます。

## HORIBAグループが挑戦する3つの分野



## 磨き抜かれたセンシングテクノロジーで世界の水を守る。



## 暮らしを支え、未来を創造する「はかる」技術

私たちの暮らしは、さまざまな「はかる」という行為から成り立っています。例えば、気温や体温をはかるなど身の回りの状況を数値化することは、行動の指針や課題解決につながります。暮らしを豊かにする産業の現場でもはかるプロセスは必須で、さまざまな分析・計測機器が活躍しています。

## 水・液体計測のプロフェッショナル堀場アドバンスドテクノ

堀場アドバンスドテクノは、HORIBAグループにおける水・液体計測のエキスパート集団です。環境ソリューションズ、半導体プロセスソリューションズ、Bio Industry、ラボ・フィールドソリューションズの4つの事業分野にビジネスを展開し、水・液体計測分野において多彩なサービスとソリューションを提供しています。

HORIBAグループでは、70年以上続く水・液体計測技術の知見を堀場アドバンスドテクノに集約し、新興国を中心に急成長を遂げる水の市場にも、事業分野を広げています。また、これまでの設置型に加え、IoTを活用したサブスクリプションビジネスなど堀場アドバンスドテクノが提案する新たなソリューションは、先進国においても課題解決の切り札になると注目されています。

## 堀場アドバンスドテクノが担う事業

環境ソリューションズ事業

半導体プロセスソリューションズ事業

Bio Industry事業

ラボ・フィールドソリューションズ事業

## 環境ソリューションズ事業

**限りある水資源の課題解決に貢献し、世界をシアワセに**  
 環境ソリューションズ事業は、上下水インフラ、工業用水・排水、生産プロセス、河川・湖沼など、あらゆる分野を対象とし、扱う水質計測機器も多岐に渡ることが特徴です。法規制の遵守だけでなく、生産効率の向上やコスト削減に貢献しています。

**さまざまな課題に、技術とネットワークで応えています。**

堀場アドバンステクノが携わる水・液体計測技術は、日本の産業の成長やそれに伴う公害への対策とともに成長し、蓄積してきた技術や経験は、成長市場である途上国で課題解決に活かされています。一方、環境への意識が高まる昨今では、資源である水の有効活用、水処理にかかるエネルギー低減など、高度な水処理プロセスへの注目も高まっています。また、日本においては、人財不足を原因とする設備の保守管理が社会課題になり、測定装置による自動化や効率化が解決の一助となっています。時代、国や地域、産業によって課題もさまざまですが、研究開発からエンジニアリングまでを一貫し、グローバルネットワークをも活用できるHORIBAグループならではの対応力を強みとして、社会貢献と共に事業を成長させるというミッションを体現しています。

**現場の負荷軽減は、大きなやりがいです。**

排水処理や水質管理の現場は、危険で過酷な場合も少なくありません。計測を通じてその負荷を軽減することで現場の方に喜んでいただければ、それはそのまま私たちの喜びでもあります。そして、水の安心安全を通じて人々に喜びを届けることができれば、世界のシアワセにつながると信じています。



開発本部  
製品開発担当

### 製品



現場形pH計HP-200  
セルフクリーニング  
pH電極6122シリーズ

全窒素・全りん計  
TPNA-500



現場形アンモニア態窒素計  
HC-200NH  
アンモニア態窒素センサー  
AM-2000

水道水質監視装置  
TW-100



水質管理ソリューション  
はかるEXpress

## 半導体プロセスソリューションズ事業

**高度なプロセスコントロールに、多角的に応える**

半導体プロセスソリューションズ事業は、半導体製造の洗浄工程で使用される洗浄液を管理するための各種計測機器を提供しています。

半導体製造工程では極微小なゴミが半導体デバイスの歩留まりを左右するため、洗浄工程はプロセスの重要な部分を占めています。使用される洗浄液の洗浄能力は温度や濃度によって変化するため、正確な濃度管理が必要になるだけでなく、現在の半導体業界では洗浄液の適正利用や廃棄量の削減といった効率化による環境負荷の低減が大きく求められており、濃度モニターは製造工程に欠かせない存在です。このように高度なプロセスコントロールにおいて、当社主力製品である薬液濃度モニターは世界のトップシェアを確立し、半導体デバイスの品質や薬液の管理に貢献しています。また、2021年～2022年にかけては、将来の需要増を見据えて薬液濃度モニターの生産能力を約4倍(2020年比)に増強しました。

海外においては、エンドユーザーの拠点の近くにアプリケーション開発拠点Wet-Labを開設すると同時に、本社開発部内には技術サポートチームを設置することで、各拠点と有機的につながりながら、要望にすばやく柔軟に対応できる体制を整えています。

**豊かな未来への貢献が、私たちのミッションです。**

半導体を実現する便利で豊かな未来の社会に、水を通じて、そして製品がもたらす効果によって貢献していくことが私たちのミッションです。世の中で活用されているスマートフォンやPCも、私たちが携わった洗浄工程を経て作られていることに日々やりがいを感じています。



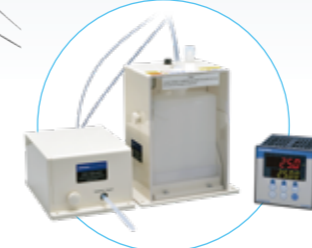
開発本部  
製品開発担当

### 製品



薬液濃度モニター  
CSシリーズ

溶存酸素計  
HD-960シリーズ



HF濃度計  
HFシリーズ

## Bio Industry事業

HORIBAグループが培ってきた技術をかたちに

Bio Industry事業は、微生物迅速検査装置の製品開発および事業化を担うため、2017年に堀場アドバンスドテクノの新規事業として発足しました。そして、長年培ってきたHORIBAグループの高度な技術にチームワークを掛け合わせることで、微生物がほとんど存在しない、あるいは低レベルに管理が必要な製薬用水のようなサンプルを高感度(1生菌レベル)かつ迅速に検出する微生物迅速検査装置Rapicaの開発に至りました。

日々の努力が「これまで」を超える成果になりました。

従来、微生物の検査では培養によって検出する培養法が広く用いられてきました。医療や製薬の現場では、微生物の検出結果を待てない状況もあるなかで、培養法では数日～数週間かかっていた時間が、わずか数時間に短縮することができる装置は画期的な開発です。また、Rapicaは同時に24検体検出できるだけでなく、分注を含むすべての作業を自動化している点でも優れ、汚染リスクの低減や作業の効率化にも貢献できるので、今後に期待が寄せられます。

事業化に向けて必要な新たな知見が山積みだったなかで、ここまで築き上げてこられたのは、個々の学びとチームワークで地道に粘り強く取り組んできたからだと思います。ブラックジャックプロジェクト<sup>※</sup>や社外の活動も、学びと知識共有の場の1つとなりました。

安全を、少しでも早く、世界にも届けたいと願っています。

前例のない新しい製品は、浸透するのに時間はかかりますが、前向きに検討して下さるお客様の声にしっかり耳を傾け、ともに成果につなげていくことは大きな喜びです。それを原動力の1つにして、治療薬などを供給する事業者様、その先の患者様に安全と迅速さで応え、将来的にはグローバル展開を目指しています。

<sup>※</sup>従業員の意識と行動の変革を目的としてスタートした社内プロジェクト。自らがテーマを決めてありたい姿を目指して取り組みます。

### 製品

微生物迅速検査装置  
Rapica



営業本部  
セールス担当



## ラボ・フィールドソリューションズ事業

センサー技術と計測技術を、顧客体験につなぐ

ラボ・フィールドソリューションズ事業が扱う製品は、HORIBAグループの祖業製品であるpHメーターをはじめとするラボ用と、実験室やフィールドで使用されるオフラインの水・液体計測機器に大別され、製薬、食品、化粧品、大学、上下水処理、農業といった幅広い分野で使用されています。水質計測の精度を担保するセンサーの応答膜を自社で開発・製造できることを強みとし、ニーズに合わせて改良を重ねながらそのコア技術を引き継いでいます。なかでもコンパクト形水質計LAQUAtwinは、そのユーザビリティが一線を画す製品として高く評価され、農業市場を中心に幅広く活用されています。

「ものづくり」と「ことづくり」の両輪で、充実したサポートを提供しています。

センサー技術そのものと並び、水質分析を左右するもう一つの要素は計測技術です。応答膜とサンプルとの界面は、制御が難しいためセンサーのメンテナンスが欠かせません。センサーの能力を十分に発揮させると同時にトラブルに対応できるよう問い合わせ窓口を設置したり、ノウハウを動画で配信するなどカスタマーサポートの充実に尽力しています。

世界中の人々の健康を夢に、新たな事業展開も目指しています。

また、国内で築いた技術と地位を足がかりに、シェアが均衡する世界でもNo.1を目指し、測定値や計器の信頼性や顧客体験の向上に努めています。同時に事業を通じてSDGsにも貢献できるよう、リサイクルや効率化の推進、環境配慮型電極の開発など、将来を見据えた取り組みにも挑戦しています。

最近では、製品の拡充やサービスの追求だけでなく、事業をさらに飛躍させていくために、ライフサイエンスやヘルスケアといった新たな市場に向けて事業を展開しています。世界で最も信頼され、選ばれる水質分析のプロバイダーになり、世界中の人々の安心・安全に役立ちたい。この夢と目標をもって、品質や技術の向上やノウハウの構築に日々努めています。

### 製品



ポータブル形  
マルチデジタル水質計  
WQ-300シリーズ

コンパクト形水質計  
LAQUAtwin



マルチ水質チェッカー  
U-50シリーズ

油分濃度計  
OCMA-500シリーズ



卓上形水質計  
LAQUA Fシリーズ

営業本部  
セールス担当



# 海外拠点との開発・生産・サービス連携で、ものづくりを支える。

● セールス拠点

## ドイツ

高温無触媒燃焼技術を保有し、水中有機物の定量、TOC計の開発・生産を担う。

## 韓国

Water Quality Monitoring System(WQMS)を現地生産。国内での水質・水環境改善に大きく貢献し、同システムも積極的に他国に展開。また半導体製造向けの開発ラボも完備。

## 中国

現地市場向けの環境規制装置の開発・生産を担う。めまぐるしく変化する市場にすばやくアプローチする体制を完備。

## 台湾

半導体製造のウェットプロセス向けにラボを設置。最先端技術を扱う顧客に密着し、アプリケーション開発の推進や、生産プロセスの効率化に貢献。

## シンガポール

グローバルなニーズにスピーディーに応えるため、ラボ・フィールド用の水質計の開発・生産を現地で推進。コストダウンにも取り組む。

## 米国

半導体製造のウェットプロセス向けにラボを設置。最先端技術を扱う顧客に密着し、研究開発やアプリケーション開発、生産プロセスの効率化を支える。

## 米国

最先端の研究設備でオンライン蛍光分析計を開発。科学・研究分野での水質分析に積極的に展開。

## 日本

水・液体計測技術を支えるヘッドクォーター。海外拠点との連携で、技術と知見を結集し、ものづくりの新たな価値を提案。

## 研究開発

高度な技術開発力で水・液体計測における世界のデファクトスタンダードを目指す



水・液体計測のエキスパート集団として基礎研究、応用開発の両面で充実した専門スタッフを擁す開発部門は、お客様のパートナーとして、ご要望に応える製品化と品質づくりをサポートしています。世界市場に向けては、国および地域の法規制や使用目的・用途に即したカスタマイズに努めるとともに、海外拠点との連携体制を構築し、本社と拠点の技術と知見を結集させたものづくりで世界へ新しい価値を届けています。技術革新のスピードが速まり、顧客・市場ニーズもめまぐるしく変化する中、IoTやデジタル化を推進し、遠隔監視システムによる環境モニタリングなど新たなソリューションも提供しています。技術開発・提案型企業として開発のより一層の効率化とスピードアップを図るため、HORIBAグループの技術シーズや設計ツールのネットワーク化、グループ内での交流を図り、技術開発力の強化を推進しています。

## カスタマーサービス

きめ細やかなサポート体制で、グローバルでの顧客満足度の向上に注力



1993年、HORIBAグループの技術問い合わせ窓口として京都の本社内に設置されたカスタマーサポートセンターでは、フリーダイヤルやホームページからの問い合わせに対応し、その件数は年間約3万件にもなります。カスタマーサポートセンターの最大の強みは、グループ会社との密な連携によるきめ細やかなサポートです。過去の膨大な問い合わせ内容は蓄積され、HORIBAグループで共有することによって製品知識のさらなる向上と丁寧な対応につなげています。

## 生産・品質

ゆるぎない匠の技を世界へ、そして未来へ



HORIBAグループの代名詞とも言える国産初のガラス電極式pHメーターが誕生したのが1951年。以来、HORIBAグループは一貫した本社工場での生産にこだわり、高精度で高品質な製品群を世に送り出しています。その根拠を支えるのは、今なお熟練の匠による手作業のガラス加工で、その技術は日々進化を遂げながら次世代に受け継がれています。同時に、人の技と最先端のテクノロジーで標準化に力を発揮するロボットとの相乗効果により、さらなる生産性の向上に取り組んでいます。また、グローバル規模で生産・品質体制を構築し、国内にとどまらず、世界各地のニーズに応える製品を提供しています。繊細で高度な技術と強固なチームワークを誇りとし、これからも国境を超えたものづくりで世界中の水を守り続けます。

# HORIBAグループのDNA

HORIBAグループの社は「おもしろおかしく」。  
このシンプルな8文字には、やりがいを持って主体的に仕事に取り組むこと  
によって人生を実り多いものにしてほしいという深いおもいが込められています。  
ひとりひとりが主役となって活躍できる舞台、それが堀場アドバンステクノです。



## 国産初、ガラス電極式pHメーター

「pHメーターのHORIBA」の名を世に広く知らしめたのは1951年に誕生したpHメーターです。当時、創業者の堀場雅夫は実現目前の電解コンデンサー量産を社会情勢の変化で断念を余儀なくされ、その代わりに開発で使用したpHメーターの商品化に注力しました。完成した国産初のガラス電極式pHメーターは大ヒット商品になり堀場製作所設立の布石になりました。オンリーワンを目指した創業者のスピリットは今も脈々とHORIBAグループに受け継がれています。



## ベンチャー精神

HORIBAグループの原点は、京都に産声をあげた学生ベンチャーです。日本のベンチャー企業の先駆けとなったそのチャレンジ精神は事業活動においてもいかに発揮され、失敗を恐れることなく新しい分野にも果敢に挑戦してきました。その取り組みは広範な事業領域形成につながり、現在もバイオテクノロジーやライフサイエンス、新エネルギーなどの新たな領域にチャレンジし続けています。

## 環境経営(サステナビリティ経営)

安全な水を必要とときに、必要とところに届けることで、人々の生活は豊かになり、社会基盤の安定にもつながります。私たちは、2020年に「Project Colors」®を立ち上げ、事業を通じて地球環境や限られた水資源の未来を守る活動を続けています。計測すること、モニタリングすることは、世界を取り巻く環境の変化や水の声に耳を傾けるということ。「未来のために、水と対話しよう」これは、サステナビリティに貢献するために私たちにできることであると同時に、私たちのバリューそのものです。

※SDGsに貢献できることを考えるための社内プロジェクト。チームに分かれ、ワークショップを開催しながらそれぞれのテーマに沿って活動しています。

## ダイバーシティ経営

HORIBAグループは従業員ひとりひとりの個性と才能をステンドグラスのように組み合わせ、美しく輝かせる職場を目指しています。2019年には「Good Place勤務制度」と冠したテレワーク制度の導入をするなど、社員がより働きやすく、働きがいを感じられる職場環境を整備することで、多様な人財によるSuper Dream Teamを実現し、既存ビジネスの変革や新ビジネスの創出を加速します。

## コミュニケーション

チームワークを大切にし、社内イベントなど社員同士のコミュニケーションの機会を積極的に設けています。「HORIBA Advanced Techno」の頭文字を取ったハット(HAT)会が企画する全社員参加の旅行やバーベキューなどのイベントは、社員の横のつながりを深める良い機会になっています。そうやって培われたチームワークはものづくりの深化に生かされています。

# 社史・沿革

1975年、株式会社コス(COS)は堀場製作所によって設立されました。「Component Supply & Service」の頭文字をとって名づけられ、農業や養殖、産業排水、生活排水、河川などあらゆる水・液体計測のニーズに応えてきました。探求心に溢れるコスと、圧倒的な技術力・ものづくりのノウハウを持つHORIBA。両社の「分析計測の技術で水を守りたい」という強い思いから、堀場アドバンステクノは誕生しました。私たちはこれからも水・液体計測のエキスパート集団として挑戦し続けます。



(株)コス設立時



(株)堀場アドバンステクノ本社

(株)堀場製作所の水・液体計測事業を承継



## Beyond Water with You

「One Water」ロゴを策定し、水・液体計測事業のヘッドクォーターとしての新たなスタートを切る

トピック	1975	1991	1992	1995	1997	1998	2004	2010	2011	2012	2014	2015	2017	2018	2019	2021	2022
製品・サービス		国内初 <sup>®</sup> DIN48×96サイズのパネルマウント形水質計測器を発売	国内初 <sup>®</sup> 半導体市場向け薬液濃度モニターを発売	世界初 <sup>®</sup> カーボンセンサー比抵抗計「GC-96R」を開発	世界初 <sup>®</sup> 鉛フリーpH電極を開発	世界初 <sup>®</sup> 現場形工業用水質計「H-1シリーズ」17機種を発売	卓上形pH・水質計「LAQUA F-70シリーズ」がグッドデザイン賞を受賞	卓上形pH・水質計「LAQUA F-70シリーズ」コンパクト形水質計「LAQUAtwin」がuniversal design award 2014を受賞	国内初 <sup>®</sup> 水質管理ソリューション「はかるEXpress」を開始「LAQUAtwin」がJIDAデザインミュージアムセレクション vol.20に選定	国内初 <sup>®</sup> 船舶排ガス浄化装置用水質モニター「EG-100」を発売	国内初 <sup>®</sup> オンライン自動全有機体炭素測定装置(TOC計)「TOCADERO ONE」を発売	微生物迅速検査装置「Rapica」を発売	世界初 <sup>®</sup> セルフクリーニングpH電極「6122シリーズ」を発売				
社史・沿革		(株)コス設立	東京セールスオフィス開設	名古屋セールスオフィス開設	(株)堀場アドバンステクノに社名変更	大阪セールスオフィス開設	四国セールスオフィス開設	九州セールスオフィス開設	東北セールスオフィス開設	広島セールスオフィス開設	HORIBA TOCADERO社がHORIBAグループに加わる	九州中央セールスオフィス開設					